

もっと知りたい!

お お く ら く に ひ こ

大倉邦彦

こころ ゆた く しや かい ねが
心豊かに暮らせる社会をつくりたいと願い、
がい しや しや ちやう きやう いく じ ぎやう しや かい こう げん
会社の社長でありながら、教育事業や社会貢献にも
ちから そそ おお くら くに ひこ
力を注いだ大倉邦彦、
じん ぶつ ぞう くわ み
その人物像をさらに詳しく見ていきましょう。



昭和七年就任

1937(昭和12)年 東洋大学学長に就任した頃

大倉邦彦 年表

大倉邦彦はどんな時代を駆け抜けてきたのでしょうか
 P〇でその時期の大倉邦彦をマンガで読めます

昭和		大正		明治		時代	
西暦(和暦)	年齢	西暦(和暦)	年齢	西暦(和暦)	年齢	西暦(和暦)	年齢
1971(昭和46)年	89歳	1926(大正15)年	43歳	1912(明治45)年	30歳	1882(明治15)年	0歳
1964(昭和39)年	82歳	1925(大正14)年	43歳	1911(明治44)年	29歳	1881(明治14)年	0歳
1962(昭和37)年	80歳	1924(大正13)年	42歳	1910(明治43)年	28歳	1880(明治13)年	0歳
1959(昭和34)年	77歳	1923(大正12)年	41歳	1909(明治42)年	27歳	1879(明治12)年	0歳
1958(昭和33)年	76歳	1922(大正11)年	40歳	1908(明治41)年	26歳	1878(明治11)年	0歳
1948(昭和23)年	65歳	1921(大正10)年	39歳	1907(明治40)年	25歳	1877(明治10)年	0歳
1945(昭和20)年	63歳	1920(大正9)年	38歳	1906(明治39)年	24歳	1876(明治9)年	0歳
1937(昭和12)年	55歳	1919(大正8)年	37歳	1905(明治38)年	23歳	1875(明治8)年	0歳
1936(昭和11)年	53歳	1918(大正7)年	36歳	1904(明治37)年	22歳	1874(明治7)年	0歳
1932(昭和7)年	50歳	1917(大正6)年	35歳	1903(明治36)年	21歳	1873(明治6)年	0歳
1929(昭和4)年	47歳	1916(大正5)年	34歳	1902(明治35)年	20歳	1872(明治5)年	0歳
1928(昭和3)年	45歳	1915(大正4)年	33歳	1901(明治34)年	19歳	1871(明治4)年	0歳
		1914(大正3)年	32歳	1900(明治33)年	18歳	1870(明治3)年	0歳
		1913(大正2)年	31歳	1899(明治32)年	17歳	1869(明治2)年	0歳
		1912(明治45)年	30歳	1898(明治31)年	16歳	1868(明治1)年	0歳
				1897(明治30)年	15歳		
				1896(明治29)年	14歳		
				1895(明治28)年	13歳		
				1894(明治27)年	12歳		
				1893(明治26)年	11歳		
				1892(明治25)年	10歳		
				1891(明治24)年	9歳		
				1890(明治23)年	8歳		
				1889(明治22)年	7歳		
				1888(明治21)年	6歳		
				1887(明治20)年	5歳		
				1886(明治19)年	4歳		
				1885(明治18)年	3歳		
				1884(明治17)年	2歳		
				1883(明治16)年	1歳		
				1882(明治15)年	0歳		

昭和

1971(昭和46)年 亡くなる(7月25日) P 41

1964(昭和39)年 大倉山坐禪会を開始 P 40

1962(昭和37)年 皇學館大学の学事顧問になる(1971)

1959(昭和34)年 委員長となる P 39

1958(昭和33)年 瀧友会(東亜同文書院同窓会)の母校再建研究委員会委員となる P 39

1948(昭和23)年 タゴール記念会の理事長となり、タゴール生誕100周年の記念行事を行う P 39

1945(昭和20)年 図書館用品販売の五輪堂を設立 P 38

1944(昭和19)年 後に疑いが晴れて釈放される(1947) P 38

1941(昭和16)年 A級戦犯容疑で巣鴨拘置所に勾留 P 37

1937(昭和12)年 東洋大学の学長となる(1943) P 34

1936(昭和11)年 「神典」を刊行する P 32

1932(昭和7)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1931(昭和6)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1930(昭和5)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1929(昭和4)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1928(昭和3)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1926(大正15)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1925(大正14)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1924(大正13)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1923(大正12)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1922(大正11)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1921(大正10)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1920(大正9)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1919(大正8)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1918(大正7)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1917(大正6)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1916(大正5)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1915(大正4)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1914(大正3)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1913(大正2)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1912(明治45)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1911(明治44)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1910(明治43)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1909(明治42)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1908(明治41)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1907(明治40)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1906(明治39)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1905(明治38)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1904(明治37)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1903(明治36)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1902(明治35)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1901(明治34)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1900(明治33)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1899(明治32)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1898(明治31)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1897(明治30)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1896(明治29)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1895(明治28)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1894(明治27)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1893(明治26)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1892(明治25)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1891(明治24)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1890(明治23)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1889(明治22)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1888(明治21)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1887(明治20)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1886(明治19)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1885(明治18)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1884(明治17)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1883(明治16)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1882(明治15)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1881(明治14)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1880(明治13)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1879(明治12)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1878(明治11)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1877(明治10)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

1876(明治9)年 精神文化研究所の建設開始 P 30

1875(明治8)年 大倉精神文化研究所を設立 P 30

1874(明治7)年 農村工芸学院(佐賀県神埼市)を開校 P 27

1873(明治6)年 図書館の建設用地として、神奈川県横浜市神奈川区太尾町(現港北区大倉山)に、土地約1万坪を購入 P 27

1872(明治5)年 本を読むだけの図書館から、研究と実践が出来る研究所へと構想を変える P 27

1871(明治4)年 アジア人初のノーベル賞受賞者、インドの詩聖タゴールを自宅に滞在させ、親交を深める P 28

大正

1926(大正15)年 世界の図書館や教育事業の視察と図書館に置く洋書を買うため、ヨーロッパ各国を訪問(1927) P 26

1925(大正14)年 西郷村(佐賀県神埼市)に郷社の社殿を寄付

1924(大正13)年 「感想」を刊行し、希望者に無料で配布 P 25

1923(大正12)年 西郷小学校(佐賀県神埼市)に講堂を寄贈 P 24

1922(大正11)年 図書館で所蔵する図書を選定を始める P 25

1921(大正10)年 関東大震災による火災で、大倉洋紙店の社屋や倉庫などを失う P 21

1920(大正9)年 母の江原エツが亡くなる P 21

1919(大正8)年 東京帝国大学経済学部・文学部の聴講生となる(1926) P 22

1918(大正7)年 富士見幼稚園(東京都目黒区)を開園 P 24

1917(大正6)年 柔道場「報国館」(東京都目黒区)を寄付 P 24

1916(大正5)年 精神文化図書館の構想を練り始める P 25

1915(大正4)年 大倉洋紙店の社長となる P 19

1914(大正3)年 大倉学寮を設立し、学生の指導にあたる P 23

1913(大正2)年 アメリカで紙パルプ業界を視察 P 21

1912(明治45)年 大倉文二(大倉洋紙店2代目社長)の養子となる P 18

明治

1912(明治45)年 大倉文二(大倉洋紙店2代目社長)の養子となる P 18

1911(明治44)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1910(明治43)年 東亜同文書院(中国の上海)に入学 P 16

1909(明治42)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1908(明治41)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1907(明治40)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1906(明治39)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1905(明治38)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1904(明治37)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1903(明治36)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1902(明治35)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1901(明治34)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1900(明治33)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1899(明治32)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1898(明治31)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1897(明治30)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1896(明治29)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1895(明治28)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1894(明治27)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1893(明治26)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1892(明治25)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1891(明治24)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1890(明治23)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1889(明治22)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1888(明治21)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1887(明治20)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1886(明治19)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1885(明治18)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1884(明治17)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1883(明治16)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1882(明治15)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1881(明治14)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1880(明治13)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1879(明治12)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1878(明治11)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1877(明治10)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1876(明治9)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1875(明治8)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1874(明治7)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1873(明治6)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1872(明治5)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

1871(明治4)年 大倉洋紙店の子会社、大倉洋紙商行天津出張所に就職 P 17

昭和

1971(昭和46)年 アポロ14号月面着陸

1970(昭和45)年 大阪で日本万国博覧会(万博)が開催

1964(昭和39)年 東海道新幹線開業、東京オリンピック(夏季)開催

1958(昭和33)年 東京タワーの一般公開

1951(昭和26)年 サンフランシスコ平和条約を結ぶ

1947(昭和22)年 インドの独立

1946(昭和21)年 日本国憲法の公布

1941(昭和16)年 太平洋戦争(1945)

1941(昭和16)年 日中戦争始まる

1937(昭和12)年 二・二六事件

1936(昭和11)年 国際連盟を脱退

1933(昭和8)年 五・一五事件

1932(昭和7)年 満州事変

1931(昭和6)年 世界恐慌

1929(昭和4)年 ラジオ放送開始

1925(大正14)年 治安維持法、普通選挙法

大正

1926(大正15)年 西郷小学校講堂

1925(大正14)年 富士見幼稚園

明治

1913(大正2)年 第一次護憲運動

1913(大正2)年 タゴールがノーベル文学賞を受賞

1914(大正3)年 第一次世界大戦(1918)


1914(大正3)年 ロシア革命

1917(大正6)年 米騒動采の価格高騰による全国的な暴動


1918(大正7)年 国際連盟が設立され、日本も加盟する

1923(大正12)年 関東大震災


1924(大正13)年 第二次護憲運動



(井村方外画)



西郷小学校講堂



富士見幼稚園

大倉邦彦

ゆかりの人々

大倉邦彦と関係が深かった人物の紹介です



大倉孫兵衛
1843~1921年

邦彦の義祖父

書籍を出版販売する大倉書店と、洋紙の輸入を行う大倉洋紙店の初代社長。また日本を豊かにするために、森村組(現森村グループ)に参画し、近代日本窯業の発展に尽力した。最晩年には「良きが上にも良き物を」という理念の下、大倉陶園を設立した。

一九三三年に邦彦が孫娘と結婚した際、自分の利益だけではなく、「人類の為に」という高い理想を持つ実業家になつてほしいというメッセージを送っている。



大倉文二
1863~1918年

邦彦の義父

商法講習所(現一橋大学)で学び、アメリカ留学を通して、欧米式の経営学とフィランソロピー(慈善)精神を身につけた。大倉孫兵衛に人柄と働きぶりが評価されて、婿養子となり、大倉洋紙店の二代目社長となった。経営の合理化や社員教育に力を入れ、周りからは「大倉洋紙店はひと味違う、近代的だ」と言われたという。その婿養子となった邦彦は、文二の会社経営の精神に強い影響を受け、実業家としてのあり方を学んだ。



長野宇平治
1867~1937年

大倉精神文化研究所の設計者

建築家、日本建築士会初代会長。辰野金吾の弟子で、古典主義様式の建築を得意とし、数多くの銀行建築を手掛けた。

奉仕活動に理解があり、東京ロータリークラブの創立メンバーで、後に入会した邦彦と知り合つたらしい。邦彦から依頼された大倉精神文化研究所本館の設計を、独自のデザインで仕上げ、プレ・ヘレニック様式と名付けた。



江原貞一
1877~1944年

農村指導者で邦彦の兄

裁判所書記から佐賀県の西郷村村長(一九二四~一九二八)となる。疲弊していた農村を振興して人材を育てるため、地場産業の育成や学校教育、青年教育等に尽力した。

女子教育にも熱心で、邦彦と共に農村工芸学院を設立して院長となり、邦彦が手を引いた後も全財産を投入し、学院を経営した。生涯を通じて邦彦の良き理解者であった。



下村湖人
1884~1955年

邦彦の後輩

佐賀県神埼郡千歳村(現神崎市千代田町)の出身。本名は虎六郎。吉田紘二郎の助言で湖人のペンネームを使い、小説『次郎物語』などを執筆した。また佐賀中学校教諭などを務めたのち、田澤義鋪が主宰する青年団運動に参加し、青少年教育にも尽力した。

湖人は佐賀中学校で邦彦の二年後輩にあたる。社会教化運動に取り組んでいた妻菊千代とともに、同じく社会貢献に努めていた邦彦と交流していた。



根津一
1860~1927年

邦彦の恩師

一九〇一年に中国の上海に東亜同文書院を創り、初代院長となる。佐賀での情熱的な講演が邦彦に入学を決意させるきっかけとなった。道徳教育を重視し、書院では儒学の『大学』をテキストにして倫理の授業を担当した。

若き邦彦は書院で、ビジネス、世界的視野、精神修養など生涯の基礎を身に付けた。根津精神・書院精神は、邦彦の人生に大きな影響を与え続け、邦彦は晩年まで書院に根津の胸像を飾っていた。



ラビンドラナート・タゴール
1861~1941年

インドの詩聖

一九二三年にアジア人として初めてノーベル文学賞を受賞し、インドでは「詩聖(グルウデーウ)」と呼ばれて、いまでも世界中から尊敬を集めている。

一九二九年の訪日では、約一ヶ月間邦彦の自宅に滞在し、東西文明の融合や自然との共生を邦彦に説き、研究所の建設と理念形成に大きな影響を与えた。二人の交流は帰国後も続き、タゴール没後に行われた一九六二年の生誕百年祭では、邦彦がタゴール記念会の理事長を務めた。



下中弥三郎
1878~1961年

邦彦から影響を受けた出版人

平凡社創業者、日本書籍出版協会初代会長。邦彦理事長の下で一九五三年に研究所所長となり、大倉山学院を開設した。

その傍ら、平和運動や世界連邦運動を推進し、世界平和会議のためにインドからパル判事を招聘し、大倉山で講演会も開いた。邦彦の影響を受けた人には、佐々井信太郎(教育者・二宮尊徳研究家)、森川覚三(日本能率協会創立者)などもいる。

ふるさと 故郷のために

くに ひこ さい さがけん はな みる さと
邦彦は21歳で佐賀県を離れましたが、故郷とのつながりを
しょうがい たいせつ しょうがい たいせつ しょうがい たいせつ
生涯大切に、社会事業・教育事業へ様々な支援を行います。
なか から くに ひこ き ぞう たてもの しょうがい
その中から、邦彦が寄贈した3つの建物を紹介します。

さい とうしょう がっ こう こう どう 西郷小学校の講堂 1925年

ふるさと ひとり おお しゃかい ひと
故郷から一人でも多く、社会のため人のために
がんば じんざい そだ おも きて ぞう
頑張る人材が育ってほしいと思って寄贈したんだ。
ちくせいしき ちらいじ ひと あつ せいだい いわ
落成式には村中の人が集まって、盛大に祝いをしたよ。



ぼ こう よこ たけ じん じょうしょう がっ こう ページ なが く さい とうしょう がっ こう
母校の横武尋常小学校(⇒24頁)の流れを汲む西郷小学校には、
こう どう のう ぎょうじつ しゅう でん こう しゃ かい ちく ひ き ふ
講堂を、そして農業実習田や校舎改築費などを寄付しています。



さい とうしょう がっ こう こう ない おお くら くに ひこ し ひろ しょう ひ
西郷小学校の校内には「大倉邦彦氏表彰碑」
(1934年)が今も建っています。また、現在も
うた 継 が れ て い る 校 歌 の 作 詞 も し て い ま す。

かす が やま どう じょう 春日山道場 1938年



この大きい道場を使って、
心と体をきたえて、立派な人になっ
てもらいたい。

1938年に完成した、県立の修養道場です。
邦彦は建設費、付属作業場の用地と農具を寄贈
しました。中央に立っているのが邦彦です。

かん ざき のう がっ こう しゅう こう じゆく 神埼農学校の鍬光塾 1937年



神埼農学校(現神埼清明高等学校)の宿泊可能な
課外活動施設です。邦彦は建設費を全額寄付し、
さらに生徒が卒業後に役に立つよう、自分たちで
建設するようにアドバイスしました。

大倉邦彦が行った 教育事業と社会貢献

どんなことをしたのかな?



ふ じ み よう ち えん 富士見幼稚園 1924~1944年

とうきょう とめ ぐろく かい えん よう ち えん ページ
東京都目黒区に開園した幼稚園です(⇒24頁)。また、園児の保護者を対象とした「富士見学びの会」や、
そつ えん せい たい しょう ふ じ み にち よう がっ こう ひら
卒園生を対象とした「富士見日曜学校」も開きました。



小さい時の学びや体験は、
その後の人生に大きな
影響を与えるから、
幼稚園を作ろうと
考えたんだよ。



のう せん こう げい がく いん 農村工芸学院 1928~1938年

さが けん かん ざき し かい こう じょ し きょう いく き かん ページ のう せん じょ し ただ じん せい かん ち し き ぎ の う しゅう たく
佐賀県神埼市に開校した女子の教育機関です(⇒27頁)。農村の女子に正しい人生観と知識・技能を習得
させることを目的とした全寮制の学校でした。



1929年7月の第2期生の卒業写真。
後列左から、甥の江原英興、院主の邦彦、院長で兄の江原貞一。

院生たちが作った編物や刺繍だよ。
これを東京や大阪の大きな商店で
販売したんだ。



③ まずはやってみよう!

実行の尊さ

思う事、言う事を決心して、実行に移し得なければ、
思う事、言う事は無駄な暇つぶしだ。(『感想』0179)



決心してやらなければ、何もしていないのと
同じだよ。決心したなら早く実行しよう!

金がないから始めない、位がないから出来ない、学問がないから止めて置く、と言って
何もしないことの申し訳や責任逃れを言う人々がある。
子どもは一人立ち出来ない時から歩き出す努力をするから、やがて完全に歩ける。
完全するまで、歩き出さない子どもは一生歩けない。(『感想』0556)



出来ない理由を考える時間があるなら、まずはやってみよう。

④ 自分を信じよう!

心の持ちかた

困難と思いつつ励むのと、必ず成就すると確信して励むのとは、同じ励みでも
効果は多大の差になる。それは思い様の違いから来る結果である。(『感想』0115)



出来ないと思っていたら出来るはずがない。
出来ると信じていれば、きっと出来るよ。
人には無限の力があって、それを引き出すのは
自分自身なんだ。自分の力を信じよう!

普段の生活で実践してみよう! 大倉邦彦の教えとは…?!



① 1日1日を大切にしよう!



時間は生命なり

死に際の一日も今日の一日も変りはない。嗚呼勿体ない。(『感想』0002)

人生観の確立を急げ

宇宙の永遠に比べて人の一生は余りに短い。されば短い命を意義深く、力強く、
愉快地生きる為には明日の日を待たず今より取りかかれ。(『感想』0008)



時間には限りがあるし、
明日のことは誰にもわからない。
楽しい日もスッキリしない日も同じ1日だよ。
きみはどんな毎日を過ごしたいかな。

② 失敗を恐れるな!

好んで柵を作るな

私には出来ない、私には信仰が得られないと言って、自ら柵を高く拵えては
ならない。柵がなければ、何時か交通が出来る。その都度少しずつ積み重ねれ
ばそれでいいと、蜜蜂や蟻が我等に教えて居る。(『感想』0311)



出来ないと思っっているのは、
きみの思い込みかも知れない。
今出来ることから少しずつやっいていこう!
必ず道は開けるはずだよ。